

在来馬と耕す ～持続可能で自立した暮らしの発信～

〒402-0043
山梨県都留市平栗98-2
電話:0554-46-0039
E-mail:daihyo@teforum.org
https://tef-horse-plowing.jimdo.com



ひろげる助成

3年目

実践



馬二頭引き、一人での馬耕を実現

馬耕キャラバン開催

13件

イベント参加者

417人

今年度計画の達成度

82%

活動の全体目標に対する達成度

87%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

二頭の関係性がつかめず、始めは近くにいるだけで緊張感があり、単純に並ぶということすらできずいました。馬耕するときは同時に二頭をみるということに苦労しました。

■ 工夫した点

二頭の間に壁を入れてつなぎ、安心していられる状況から徐々に壁をなくして、横に並ぶことに慣らしていきました。日々同じことを繰り返し、習慣化するように環境を作りました。

課題

化石燃料に依存しない農耕手段として馬とともに耕す馬耕を復活させ、技術とともに文化を継承していき、馬とのかかわりにより実感できる持続可能な暮らしの可能性を示します。

目標

馬耕二頭引きなど耕運技術の蓄積、馬糞堆肥利用など来馬の活用と循環型農業を実現させ、馬と耕す暮らしから持続可能な社会の価値観を伝達するモデルとして発信します。

活動内容と成果

実践の中で馬耕技術を学び、土を返すという技術から一連の作業として耕作方法を体系化する段階になりました。さらなる実用化に向けて、二頭で引くことで牽引力をあげ、土塊を砕く砕土機を開発しています。また馬糞堆肥利用、放棄地放牧、地域廃棄物利用など循環型農業を実現してきました。馬と耕す暮らしの中で得られる持続可能な暮らしの価値観を定義し、全国の土を耕してめぐる馬耕キャラバンで参加者に伝えています。馬とともに1日を過ごしなが馬耕を体験し、その感想から持続可能な暮らしの価値観を得られるようになってきました。



子どもたちに引き継ぎたい馬耕文化

全助成期間の活動を振り返って

まったく馬に触ったこともないところから始め、馬を飼育するとともに、どうしたら馬耕ができるようになるのか、助成を受けることによって化石燃料から自立したお米作りや循環型農業に挑戦してすることができました。現代における馬耕を、昔の暮らしを再現するだけでなく、失われてしまった地域の自立性や価値観を取り戻すもの、私たちのこれからの暮らしを見直すために必要なものではないかと思うようになりました。



巧みな牽引に田おこしを教わる

今後の展望

二頭引きによる田おこしや、砕土機との組み合わせにより田んぼの代掻きの実用化を検証していきます。砕土機を畑でつかい麦を生産する土作りにも挑戦します。また、馬耕キャラバンを継続していくことによって、さらに多くの地域や世代に体験者を増やしていきます。里山保全など家畜との暮らしから得られる恵みの価値とともに、自立した持続可能な暮らしの可能性を実感できる文化技術として発信していきます。